

推進テーマ

「身近な環境に繰り返し関わることで、
想いを深め、伝え合おう」

～主体的・対話的で深い学びの実現に向けて～

鳥が丘地区
しらかば幼稚園
鳥が丘小学校

推進テーマ設定の理由

- 遊びを通した総合的な学びから、教科を通した学びへ、子どもの思いや願いを大切にした教育活動を推進していきたい。
- 3年間の事業の1年目だから無理せず、例年より2~3回交流活動を増やして、まず先生たちの交流も深めたい。情報交換をさらに充実させたい。
- 植物の生長の観察や色水遊びなどの体験を通した生活科の学習や季節に応じた秋の実で遊んだりおもちゃを作ったりして遊びの交流を発展させたい。遊びから学びへの系統性の確認をしていく。
- 卒園と入学を見据えた交流として、年長と5年生との交流も考える。

< 推進内容 >

小学校での「スタートカリキュラム」で、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」をもとに、幼児期に身に付けた力を見とり、教科等の学習につないでいくこと。他者とのかかわりを深めること。

「共主体」



「主体的な学び」「主体性」を育てていく



「〇〇したい！」 「次は〇〇だから…」といった思いを引き出す



子どもたちが見通しをもって学習に臨んだり、日々の学校生活を送ったりできるようにする

< 取組前の姿 >

- 想いや願いをもっているけれども、それらを言語化することが難しかったり、どのように行動に移せばよいかの見通しをもてなかったりする。
- 間違いや失敗を過度に恐れるあまり、消極的になってしまうことがある。周囲の動きを気にして「自分から」という思いがまだ弱い。
- 今年度から学校全体のたてわり活動を推進しているが、1年生は特に高学年に頼り、ペア学年の6年生に頼り依存的になり、本来もっている力、園で育んできた力を発揮できていない。
- 6年生は主体的に学校のリーダーとして動いているが、5年生がまだ高学年としての自覚がもてない。

今年度の重点課題～今年度力を入れたこと～

★しらかば幼稚園と鳥が丘小学校が子どもも大人もお互いを知ること

【期待する推進成果】

- 幼児期に遊びの中で、周囲のものや人といった環境に主体的に関わり、より楽しい関わり方や新しい関わり方の発見や創造について、思考力の基礎を育み、感性や表現力を高めた力を基盤として、小学校では主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して、生きる力を育んでいくことができると期待する。
- 園児（年長）は学校を知り、児童や教師と関わることで、安心してわくわく感をもって入学してくる。

<取組 1 >

活動につなげる種まき→朝顔を共に（栽培）育てる。
～見通しをもって、安心して、主体的に学ぶ力をつける～
年長さんに朝顔の花の絞り出し汁で染めもの遊びを教えてください。



< 取組 2 > ～5年生との交流～

年長児（新1年生）と5年生（新6年生）の将来のペア学年が交流する。知り合いになる。

- ①5年生が運動会で踊った「鳥小ソーラン節」をカッコいいはっぴを着て披露する。
- ②ソーラン節のお礼に、年長さんも得意のダンスを踊ってみせるよ！一緒にゲームもしたよ！
- ②11月、来春4月の入学式に、お迎えに咲くチューリップの球根植えをいっしょにやろう！

11/11、しらかば幼稚園年長児と交流をしました。ダンスやソーラン節を互いに披露した後、一緒に球根を植えました。「入学式の際にきれいな花がさいているといいな」という願いを込めて。最後にグループごとに「だるまさんがころんだ」など一緒にできる遊びをしました。



< 取組 3 > 秋を楽しもう！ 木の実や葉っぱでゲーム屋さん

(1)本時目標

つくったおもちゃを試行錯誤しながら、年長児が楽しみながら一緒に遊べる工夫することができる。

(2)本時展開

いっしょにたのしむためにどんなくふうができるかな



○主な学習活動	・予想される児童の反応	・教師の手立て	★評価規準
<p>●前時までの活動を振り返り、本時の目当てを確認する。 いっしょにたのしむためにどんなくふうができるかな</p> <p>○グループごとにもっと簡単におもちゃを作れるように考えを出し合う。</p> <p>どんぐりゴマ ・手をけがさないように、あなをあけるようにしよう。 ・どんぐりの大きさをそろえておくといひよ。</p> <p>おめん はっぱのかんむり おちばドレス ・はっぱは色べつにわけておくといひね。 ・のりだとすぐとれちゃうな。</p> <p>けんだま ・まつぱっくりでけん玉もいいね。 ・どんぐりでも、つくれるかな。</p> <p>がっき はっぱとどんぐりいれたら、おもしろおとになったよ。</p> <p>○本時の活動を振り返り、工夫や気づきを全体で伝えあう。 ○次の活動への見直しを持つ。</p>	<p>●前時までの活動を振り返り、本時の目当てを確認する。 いっしょにたのしむためにどんなくふうができるかな</p> <p>○グループごとにもっと簡単におもちゃを作れるように考えを出し合う。</p> <p>どんぐりゴマ ・手をけがさないように、あなをあけるようにしよう。 ・どんぐりの大きさをそろえておくといひよ。</p> <p>おめん はっぱのかんむり おちばドレス ・はっぱは色べつにわけておくといひね。 ・のりだとすぐとれちゃうな。</p> <p>けんだま ・まつぱっくりでけん玉もいいね。 ・どんぐりでも、つくれるかな。</p> <p>がっき はっぱとどんぐりいれたら、おもしろおとになったよ。</p> <p>○本時の活動を振り返り、工夫や気づきを全体で伝えあう。 ○次の活動への見直しを持つ。</p>	<p>●前時までの活動を振り返り、本時の目当てを確認する。 いっしょにたのしむためにどんなくふうができるかな</p> <p>○グループごとにもっと簡単におもちゃを作れるように考えを出し合う。</p> <p>どんぐりゴマ ・手をけがさないように、あなをあけるようにしよう。 ・どんぐりの大きさをそろえておくといひよ。</p> <p>おめん はっぱのかんむり おちばドレス ・はっぱは色べつにわけておくといひね。 ・のりだとすぐとれちゃうな。</p> <p>けんだま ・まつぱっくりでけん玉もいいね。 ・どんぐりでも、つくれるかな。</p> <p>がっき はっぱとどんぐりいれたら、おもしろおとになったよ。</p> <p>○本時の活動を振り返り、工夫や気づきを全体で伝えあう。 ○次の活動への見直しを持つ。</p>	<p>●前時までの活動を振り返り、本時の目当てを確認する。 いっしょにたのしむためにどんなくふうができるかな</p> <p>○グループごとにもっと簡単におもちゃを作れるように考えを出し合う。</p> <p>どんぐりゴマ ・手をけがさないように、あなをあけるようにしよう。 ・どんぐりの大きさをそろえておくといひよ。</p> <p>おめん はっぱのかんむり おちばドレス ・はっぱは色べつにわけておくといひね。 ・のりだとすぐとれちゃうな。</p> <p>けんだま ・まつぱっくりでけん玉もいいね。 ・どんぐりでも、つくれるかな。</p> <p>がっき はっぱとどんぐりいれたら、おもしろおとになったよ。</p> <p>○本時の活動を振り返り、工夫や気づきを全体で伝えあう。 ○次の活動への見直しを持つ。</p>

〈取組4〉 校内重点研究生活科

「見て！きいて！ぼく、わたしのせいちょう！」 ～もうすぐ2年生～

手立て

○年長児と保護者に発表する場を設定

年長児や保護者を招いて、自分たちの成長を発表するという場を設定することで、学習の目的意識を明確にもたせ、意欲を高めさせたいと考えた。その関わりの中で、自分にもできることや役割が増えたことを確認し、自分や友達が成長してきたことに気付かせたい。また、自分ができるようになったことは、自分一人だけでできるようになったのではなく、そこには多くの人の支援や励ましがあったことに気が付かせる。また、保護者だけではなく、年長児に見てもらおう際も、どうしてできるようになったのかを一言話した後に発表させるようにすることで、新1年生としての期待を年長児にもたせるとともに、自分の成長に関わった人への感謝の気持ちをもって活動できるようにしたい。

単元で育成を目指す資質・能力

「主体的に学び、考えを深め合う子の育成」
～表現活動を工夫し、対話的な学びを大切にした授業を通して～

知識及び技能の基礎

- ・ 1年間を通してがんばったことや自分でできるようになったことが増えたことなどが分かり、自分のよさや可能性に気付いている。
- ・ 年長児に教えることができようになり家族を喜ばせたりすることができた自分の成長に気付いている。

思考力・判断力・表現力等の基礎

- ・ 入学してからのことを振り返り、自分のことや友達のこと、自分ができるようになったことを考え、表現することができる。
- ・ 自分の成長に希望を持ち、これからの生活について考えている。
- ・ 自分の成長を支えてくれた人に対し感謝の気持ちを持ち、それを多様な方法で表現することができる。

学びに向かう力・人間性等

- ・ 年長児と関わりを深めたり入学してからの1年間を振り返ったりする活動を通して、これまでの成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちを持ち、これからの成長への願いをもって、意欲的に生活しようとしている。
- ・ 1年間の出来事やがんばったことを思い出し自分の成長を振り返ろうとしている。
- ・ 2年生への期待をもって、意欲的に生活しようとしている。

しらかばようちえんのおともだちにもっとつたわる
はっぴょうにしよう



〈取組5〉

「がっこうってこんなにたのしいよ！はっぴょうかい」

- ・ 園児と1年生が交流 音読発表・歌や鍵盤ハーモニカ発表・縄跳び発表・コマけん玉発表
- ・ 5年1組と園児が楽しいゲーム屋さんで交流



< 取組後の子どもの姿 >

- 交流の機会を増やし、身近な環境に繰り返し関わることで、想いを深め、自分の考えを伝え合ったり共に伝え合おうとしたりすることで、それをさらに深めていく姿が見られた。また相手を意識し、かける言葉を大切にし、豊かに関わろうとする子どもの姿も見られた。



- 年長児との交流では、相手のことを考えて伝えたいことを選んだり、優しく教えたりすることができるようになってきている。

<成果>



○1年生は、自分の思いを言葉にしたり、行動に移したりすることのよさを感じることができた。

2年生になる自覚と年長児を喜ばせたいと相手意識をもつことができる。

○園児は、小学校入学への不安を解消し、わくわく感と、期待感をもって、入学を迎えるようになる。上級生と知り合い、学校、校舎への安心感を得る。

◎教員同士が交流し、思いや願いを共有し、交流活動の計画を立てることができた。（推進委員会・打ち合わせ・給食交流等）

< 課題 >

- 1年目は幼稚園の年長児と幼稚園教諭が年に4回交流、推進会議や給食の会食、運動会参観などに来校してくれたが、2年目は、小学校教諭が保育参観や見学に行きたい。
 - 今年度も子どもたちの活動に有効な必要な物を購入できたが、来年度も予算のより効果的で適正な運用と交流計画の確認や打ち合わせの時間の確保をしていきたい。
 - 2年目は幼稚園の先生からの要望や交流計画の希望を優先したい。
- △取組が特定の学年に限られることがあった。発達段階等を考慮しながら、今年度の取組をいかに小学校も幼稚園も全体に広げていけるか。

